

AND 賞

Archi-Neering Design AWARD

第5回 アーキニアリング・デザイン・アワード 2024



優秀賞

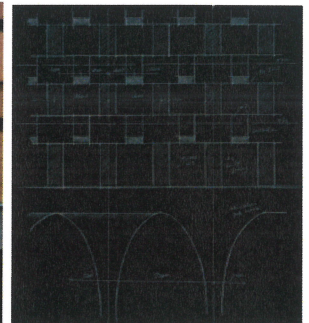
富士ソフト汐留ビル

～現代化された組積造による都市型オフィス～

応募代表者：三橋 幸作（竹中工務店）

共同応募者：田井 暢、柳澤 慎太郎、平尾 雅之（竹中工務店）

【応募理由】昨今の LCCO2 削減、建築仕様・性能の高度化、レジリエンス向上等、複雑に絡まった建築的課題を解決するには、建築家のアイデアと各領域のエンジニアリングを統合しつつ最適化できる新しいシステムが必要だと感じ、私達は、ドミノ・システムが乗り越えた組積造建築に可能性を見出しました。富士ソフト汐留ビルは、「現代化された組積造」をデザインコンセプトとして新規開発された「千鳥積層型外壁 PC 架構」を軸とし建築と構造・設備エンジニアリング、生産技術までをインテグレートした都市型オフィスです。現代建築の課題、新しい架構システムの実現に挑戦した私達のデザインは、「建築と技術の融合・触発・統合の有様とそれを志向する理念」を掲げるアーキテクリング・デザインそのものだと感じ、AND 賞に応募しました。（三橋）



【講評】この計画はオフィスの成熟した既存技術を新たな視点で適材適所に再構成した優れた提案である。「イタリア街」という特異な都市街区の計画で求められる景観に合わせるため、レンガ風の色彩の外壁とアーチというある意味見慣れたボキャブラリーで、一見するとラーメン構造にランダムな外皮を纏わせた「流行の」のビルに見えてしまうが、詳細に読み解くと、「ドミノ・システムのオルタナティブ」と語っている意気込みの理由がわかる。基本的には軟弱地盤と地震国に対応する免震構造をベースにして、地上部分を街並みに調和する大スパンの SRC 構造アーチを基壇とし、その上のオフィス部分を「千鳥積層型外壁 PC 架構の外壁」としている。この外壁は建築・設備・構造をインテグレートさせたデザインコンセプト「現代の組積造」と呼ぶ「正直」な素材と力学による技術の詰まった外装である。地震力を受ける柱と梁のない PC ブロックがそのまま内外壁となっているため、外観は日射調整と自然換気口を隠す彫りの深い表情となっておりと同時にセンターコアに耐震部材のない「薄く透けたコア」を生み出している。アーキテクリング・デザインとして相応しい都市型中規模オフィスの優れた提案であると言える。（堀越）